



西之表地区  
中園 昌吾さん(41)

**畜産農家の魅力**  
牛の成長と高額売却に喜び  
昔から牛の世話をすることが好きだった中園さん。「子牛が生まれた瞬間やミルクを飲むところはとてもかわいい。元気な姿を見ることが何よりも幸せだ」と笑顔を見せます。中園さんに毛づくろいされる牛は気持ちよさそうです。  
また、自分が愛情を注いで育てた牛が購買者に認められ、高額で売却されたときの喜びは他では味わうことができないと話します。

西之表市安納の中園昌吾さんは、就農20年目の畜産農家です。父親が現役の畜産農家で幼少期から牛とふれあう機会が多かったため、畜産農家になることが目標になりました。  
地元の農業高校と農業大学校で技術を学び、平成13年に就農しました。  
当初は、家族経営で生産牛60頭を飼養。現在は生産牛120頭に規模を拡大し、昨年10月に株式会社中園翔葵を設立。従業員を2名雇用し独立しました。県畜産共進会で上位入賞を収めるなど、種子屋久の未来を担う若手のエースです。

**共進会上位入賞へ**  
他地区に負けない牛を  
6年連続で県畜産共進会に出場し上位入賞を収めた中園さんは、次の共進会出場に向け動きだしています。  
「他地区の牛は本当に強い。モモの厚みや毛並みなど自分の牛に持ち合わせていない特徴を持つている牛も多い。そのような牛に勝つために、自分にしか出せない特徴を向上させていきたい。今後も生育管理を怠らず、更に良質な牛の生産に努めています」と熱意を燃やしています。

**育成の苦勞**  
病気の予防と体調管理  
農家なら一度は経験がある農畜産物の病害。中園さんは愛情を注いだ牛が病気で倒れることがないよう、体調管理に気を配ります。「過去に病気で死なせてしまい悔しい思いをした。牛の体調は必ず確認し、表情や行動まで見逃したくない」と感情をあらわにしました。  
大規模となった現在では、従業員に親牛の管理を任せ、子牛の体調管理に専念。努力の結果、病気になる牛が激減し元氣のある子牛が育っています。

